



厚生労働省 三重労働局発表

令和3年3月1日(月)

担当	厚生労働省三重労働局職業安定部 職業安定課長 小西 克明 職業安定課長補佐 堀 保 地方労働市場情報官 大西 一幸 電話 059-226-2305
----	---

報道関係者 各位

「雇用情報モニター報告集計結果(令和2年度第4・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年4回(四半期毎)提出いただいております。

このたび、令和2年度第4・四半期(令和3年1月～3月)実績見込み及び次期(令和3年4月～6月)見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

調査結果 主な項目の概要

○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が30.0%で前期と比べ減少、「減少」が18.3%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は11.7で前期と比べ1.6ポイント下降。次期見通しは6.7で下降予想。

○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が25.4%で前期と比べ減少、「減少」が20.6%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は4.8となり前期と比べ6.4ポイント上昇。次期見通しは12.7で上昇予想。

○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が21.7%で前期と比べ減少、「減少」が18.3%で前期と比べ減少、D I(「増加」-「減少」)は3.4となり前期と比べ0.1ポイント上昇。次期見通しは10.0で上昇予想。

○ 設備投資の見込み

「ある」が14.3%で前期と比べ3.2ポイント減少、「ない」が55.6%で前期と比べ1.6ポイント増加。D I(「ある」-「ない」)は▲41.3で前期と比べ4.8ポイント下降。

○ 従業員の過不足判断

「過剰」は4.8ポイントで前期と比べ増加、「やや過剰」は9.5ポイントで前期と比べ増加、「不足」は4.8ポイントで前期と比べ増加、「やや不足」は12.7ポイントで前期と比べ減少。D I(「過剰」-「不足」)は▲3.2となり前期と比べ4.8ポイント上昇(過剰判断が増加)。次期見通しは▲5.6で「過剰」判断はやや減少の予想。

○ 雇用調整の状況

実施事業所数は25事業所(40.3%)で、前期の27事業所(42.9%)より2事業所の減少。

○資料

別添 「令和2年度 雇用情報モニター報告集計」

○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
- ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
- ・調査時期 令和2年度第4四半期（令和3年1月～3月）実績見込み及び次期（令和3年4月～6月）見通しについて
- ・モニター内訳 民間企業64社（建設業2、製造業48、運輸業2、小売業7、サービス業等5）事業主団体等8
- ・回答状況 民間企業64社、事業主団体等8団体

（注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

令和2年度 雇用情報モニター報告集計

令和2年度 第4・四半期
三重労働局職業安定部職業安定課

令和2年度第3・四半期（2年10月～12月 以下前期）においては、受注・生産動向のD Iはプラス、企業活動状況の多くのD Iはマイナスとなりましたが、2年度第4・四半期（3年1月～3月 以下今期）においては、多くの指標のD Iがマイナスとなりました。

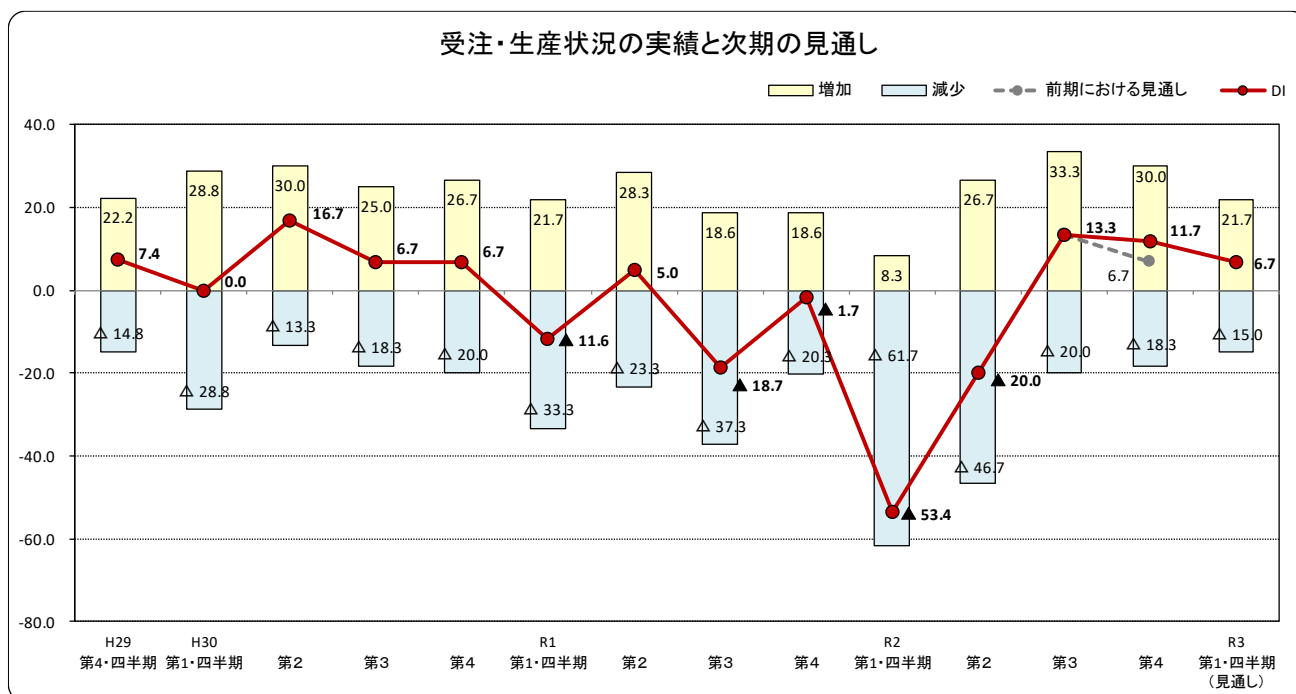
次期の予想においては、受注・生産動向は下降、企業活動状況は上昇の見通しとなっています。

1. 受注・生産動向について

【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が30.0%、「減少」が18.3%で、D I（「増加」－「減少」）は11.7で前期と比べ1.6ポイント下降しましたが、2期連続でプラスとなりました。

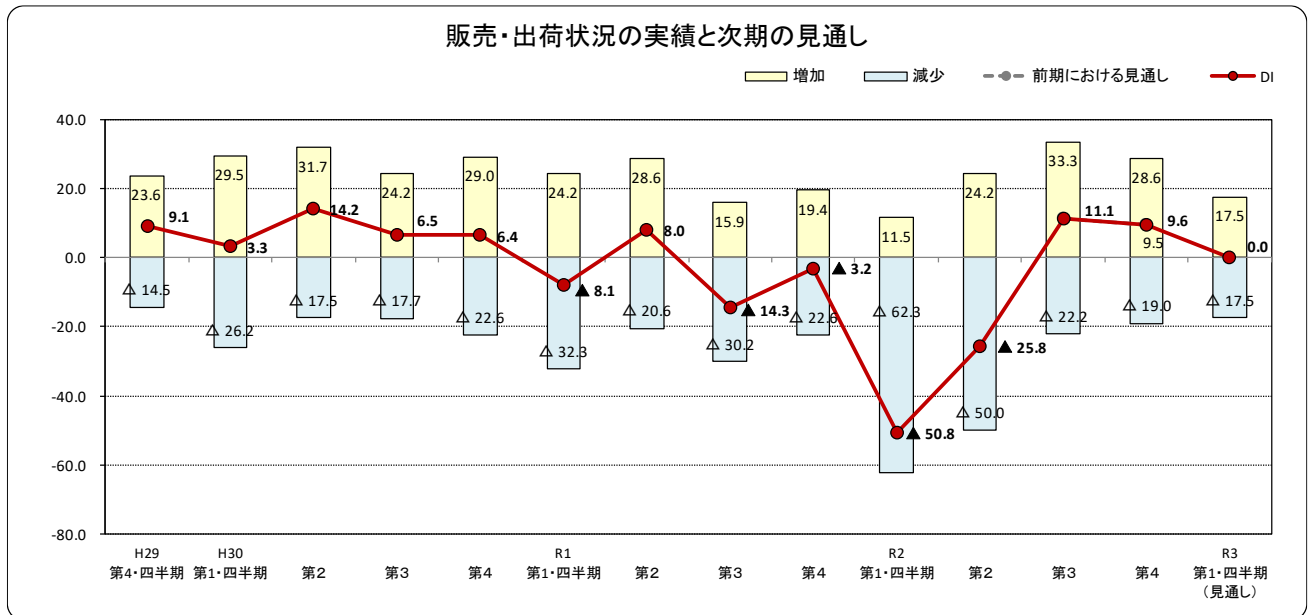
次期の見通しについては、D Iは6.7で、下降する予想となっています。



【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が28.6%、「減少」が19.0%で、D I（「増加」－「減少」）は9.6で前期と比べ1.5ポイント下降しましたが、2期連続でプラスとなりました。

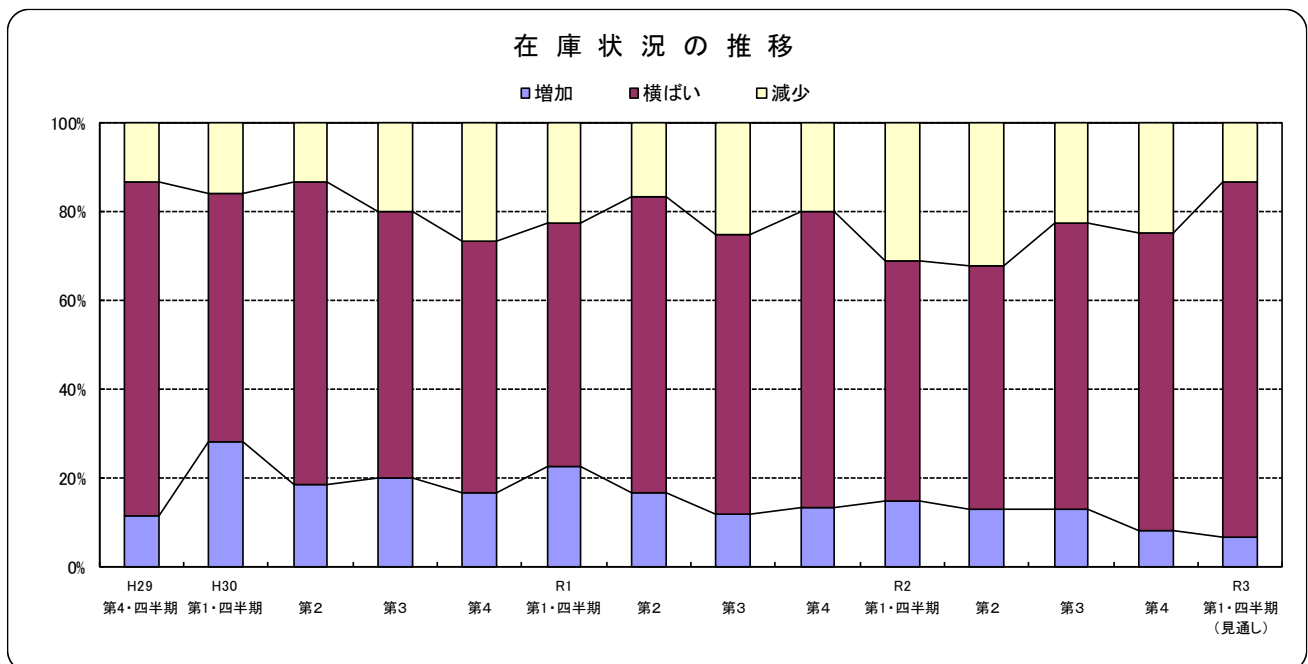
次期の見通しについては、D Iは0.0で、下降する予想となっています。



【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が減少、「減少」が増加、44期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「横ばい」が増加し、「増加」が減少する予想となっています。

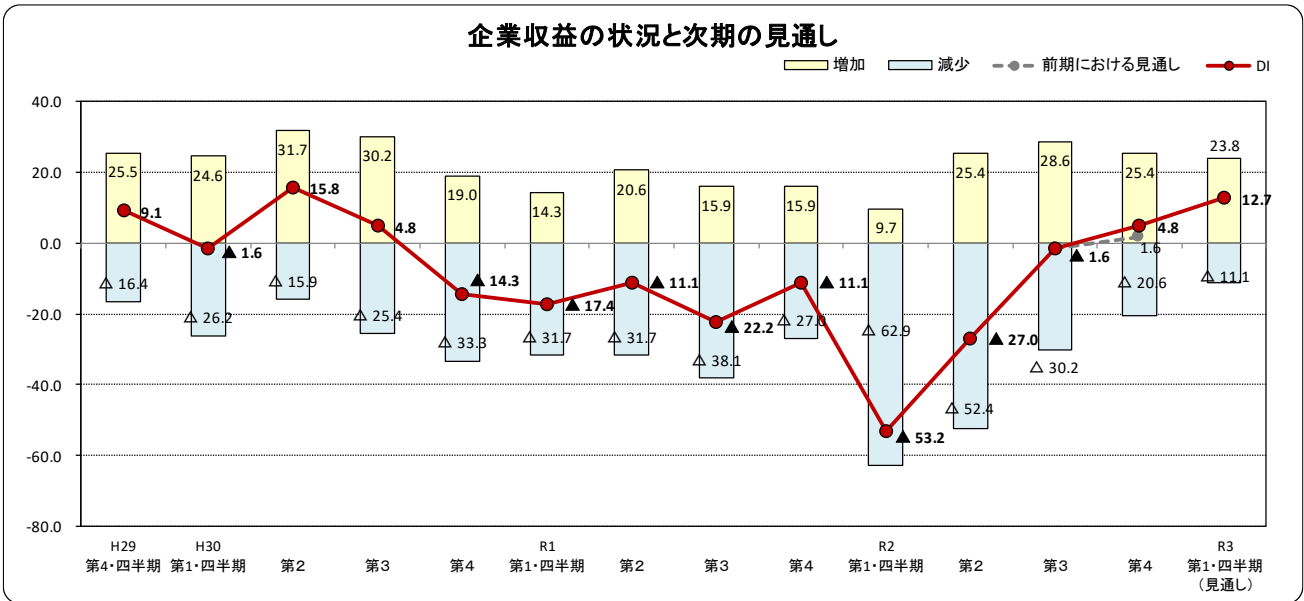


2. 企業活動の状況について

【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が25.4%、「減少」が20.6%で、D I（「増加」－「減少」）は4.8となり、前期と比べ6.4ポイント上昇し、9期ぶりにプラスとなりました。

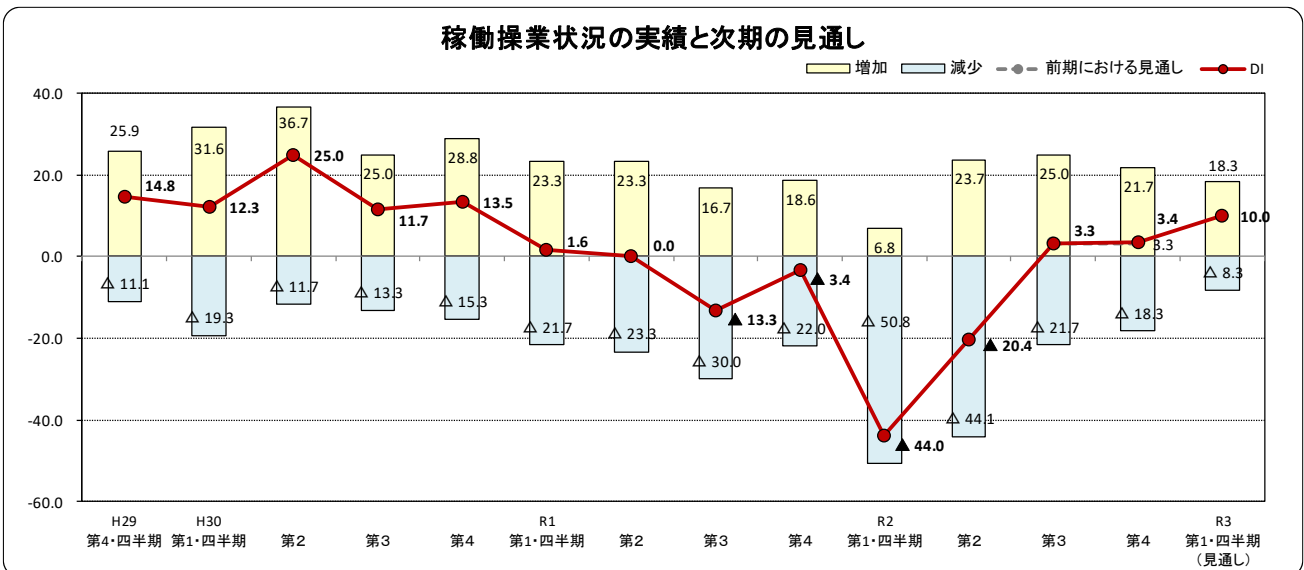
次期の見通しについては、D Iは12.7で、上昇する予想となっています。



【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

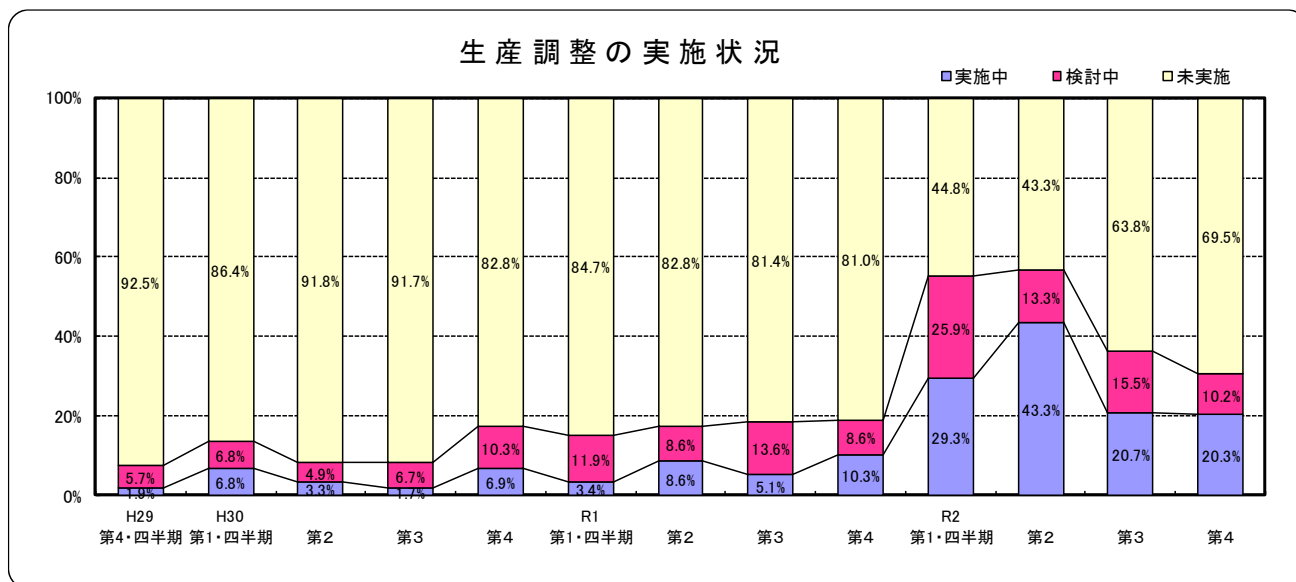
今期の稼働操業状況では、「増加」が21.7%、「減少」が18.3%で、D I（「増加」－「減少」）は3.4となり、前期と比べ0.1ポイント上昇し、2期連続でプラスとなりました。

次期の見通しについては、D Iは10.0で、上昇する予想となっています。



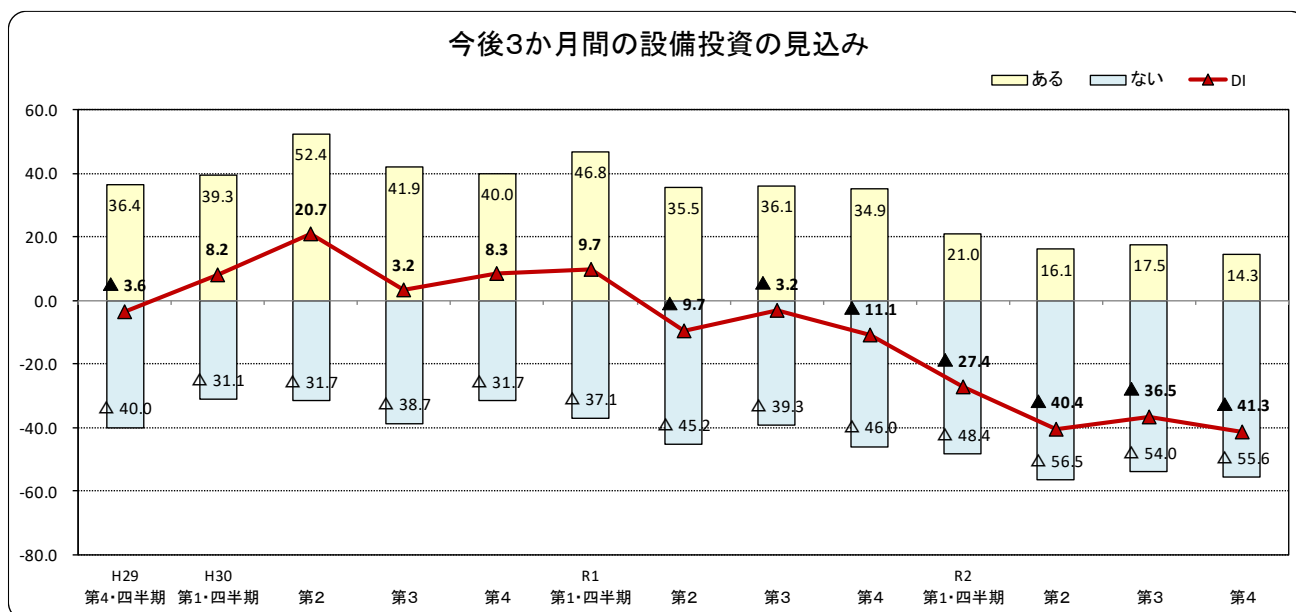
【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は69.5%で前期と比べ5.7ポイント増加、「検討中」は10.2%で5.3ポイント減少、「実施中」は20.3%で0.4ポイント減少となりました。



【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は14.3%で前期と比べ3.2ポイント減少、「ない」とする事業所の割合は55.6%で前期と比べ1.6ポイント増加、D I（「ある」-「ない」）は▲41.3となり、前期と比べ4.8ポイント下降しました。

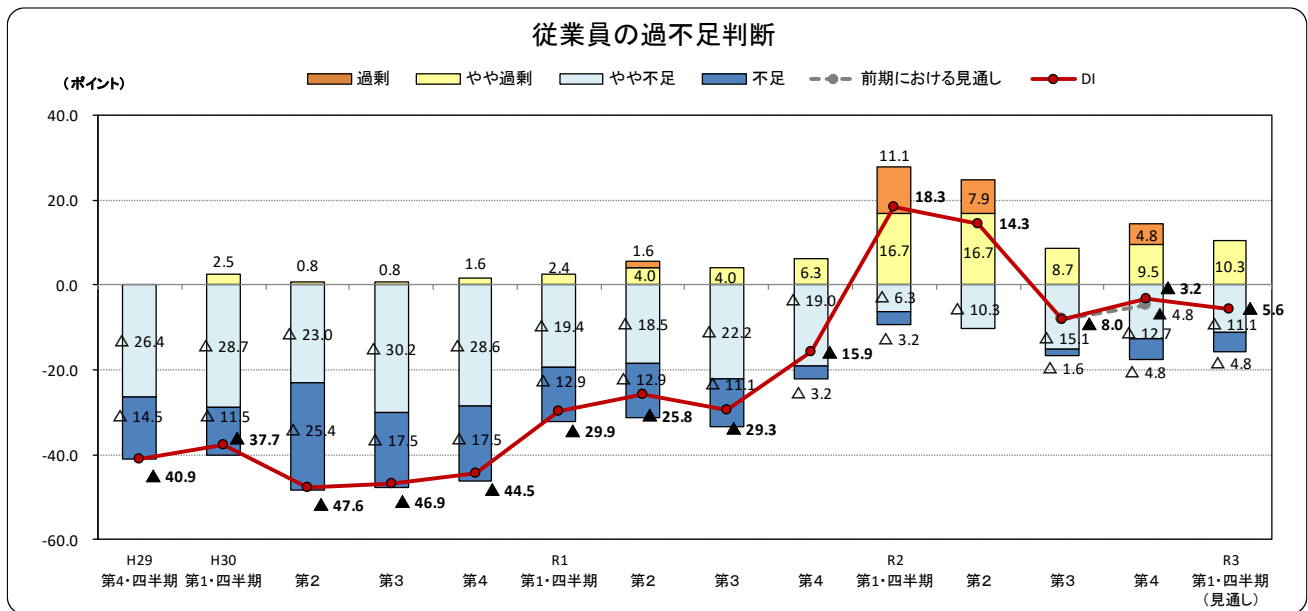


3. 雇用動向について

【従業員の過不足判断】

「過剰」とする事業所は 4.8 ポイントで前期と比べ 4.8 ポイント増加、「やや過剰」とする事業所は 9.5 ポイントで前期と比べ 0.8 ポイント増加、「不足」とする事業所は 4.8 ポイントで前期と比べ 3.2 ポイント増加、「やや不足」とする事業所は 12.7 ポイントで前期と比べ 2.4 ポイント減少し、D I（「過剰」-「不足」）は▲3.2 となり、前期より 4.8 ポイント上昇（過剰判断が増加）しましたが、2 期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

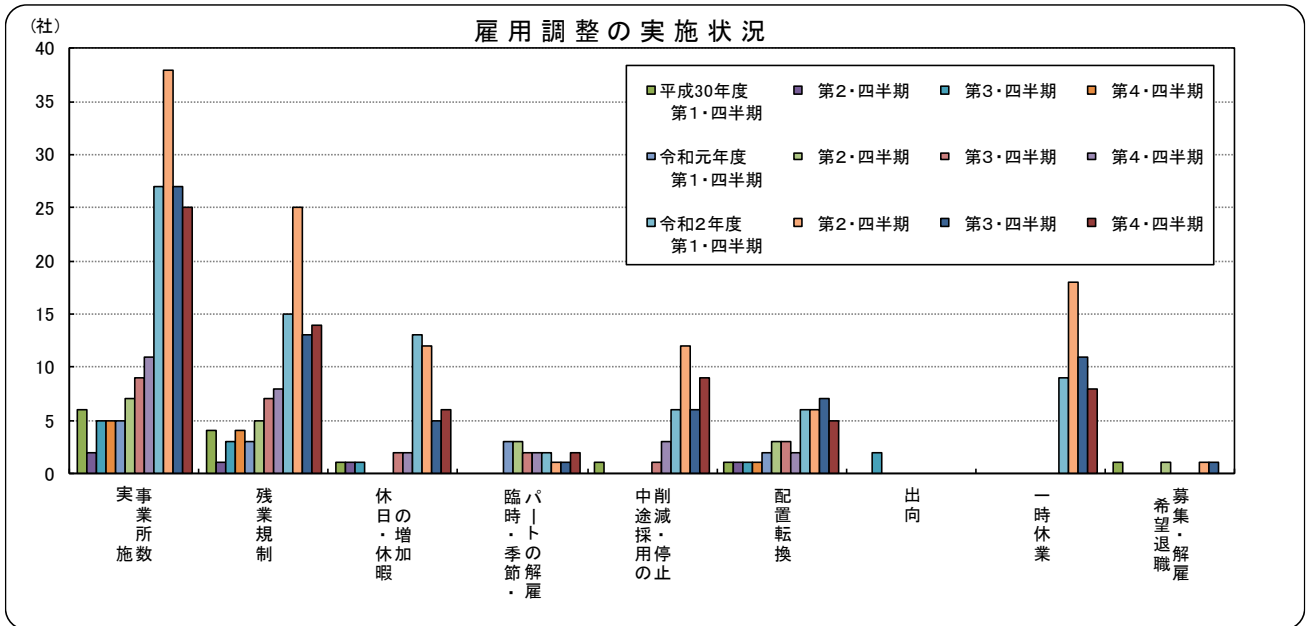
次期の見通しについては、D I は▲5.6 で、過剰判断はやや減少の予想となっています。



【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は 25 事業所 (40.3%) で、前期の 27 事業所 (42.9%) より 2 事業所の減少となりました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
平成30年度 第1・四半期	60	54	0	6	4	1	0	1	1	0	0	1
第2・四半期	62	58	2	2	1	1	0	0	1	0	0	0
第3・四半期	60	53	2	5	3	1	0	0	1	2	0	0
第4・四半期	59	53	1	5	4	0	0	0	1	0	0	0
令和元年度 第1・四半期	61	56	0	5	3	0	3	0	2	0	0	0
第2・四半期	62	54	1	7	5	0	3	0	3	0	0	1
第3・四半期	62	52	1	9	7	2	2	1	3	0	0	0
第4・四半期	62	51	0	11	8	2	2	3	2	0	0	0
令和2年度 第1・四半期	61	25	9	27	15	13	2	6	6	0	9	0
第2・四半期	59	18	3	38	25	12	1	12	6	0	18	1
第3・四半期	63	33	3	27	13	5	1	6	7	0	11	1
第4・四半期	62	34	3	25	14	6	2	9	5	0	8	0



<主なコメント>

ほぼすべての回答から新型コロナウイルスの影響があることが報告されている。

- 先々の受注状況がより読みづらい状況。採用は新卒、中途ともに不調。（建設業）
- 経済活動の再開で生産量が増加し収益も若干改善傾向であるが、通期ではまだ影響が大きい。（製造業）
- 前期予想より受注、販売とも伸びず、次期の収益は若干下落を予想。採用が不調で人手不足。（製造業）
- 観光客の減少で販売量が減少し収益と稼働が悪化しており一時休業を継続中。（製造業）
- 大口受注の残り売上は増加見込。それ以外は横ばいで1・2月に一時帰休等を実施中。（製造業）
- 受注・生産、収益・操業状況とも小幅な増加。設備投資は更新分のみ。（製造業）
- 受注が確保でき生産も当面横ばい収益も次期には一定確保できる見込。休日出勤、残業は低調。（製造業）
- 中国を中心に需要が回復し受注が増加。収益も10月以降回復傾向で期間社員と派遣社員を増員。（製造業）
- 巣ごもり需要で販売は好調、資源エネルギー価格の低下で稼働率も高く昨対以上の利益を確保。（製造業）
- 家庭用とスーパー用はまずまずだが外食向けは復調せず、業務量の過多を応援シフトで対応。（製造業）
- 生産・収益とも前期と比べほぼ横ばい。従業員の不足は若干のため派遣社員で対応。（製造業）
- 前年同期比で販売、生産は下落し収益も低下傾向。人員の適正配置で適正な稼働状況。（製造業）
- 現状ではほぼ年初の計画に戻っており、今後も同水準で推移する予定。（製造業）
- 受注済の製作が次期にかけ続きフル稼働状態、出荷も増加見込、収益も繰越があり安定して推移。（製造業）
- 前月の稼働日減の反動で1月は生産量が増加したが需要減は続いており生産調整、休業を実施中。（製造業）
- 受注は以前まで回復し操業もピークを維持。人員不足は配置転換と技能実習生を補充し対応。（製造業）
- 生産量は運搬用品と電子部品の入手難で100%を切っており、12月に5日間の一時帰休を実施。（製造業）
- 半導体不足の影響で生産調整を実施（製造業）
- コロナの影響で今後も売上や収益は厳しく残業の削減を実施。パート、アルバイトの募集を継続。（小売業）
- 売上は横ばいだが、コスト削減で収益は増加の見込。退職者の補充が不十分な状況。（小売業）
- 前期はGoTo トラベルの繁忙から、停止になり宿泊客が大幅減。今期はさらに悪化の見込み。（宿泊業）
- 新型コロナウイルス第3波の影響と緊急事態宣言の発令後に売上が下落。（飲食業）